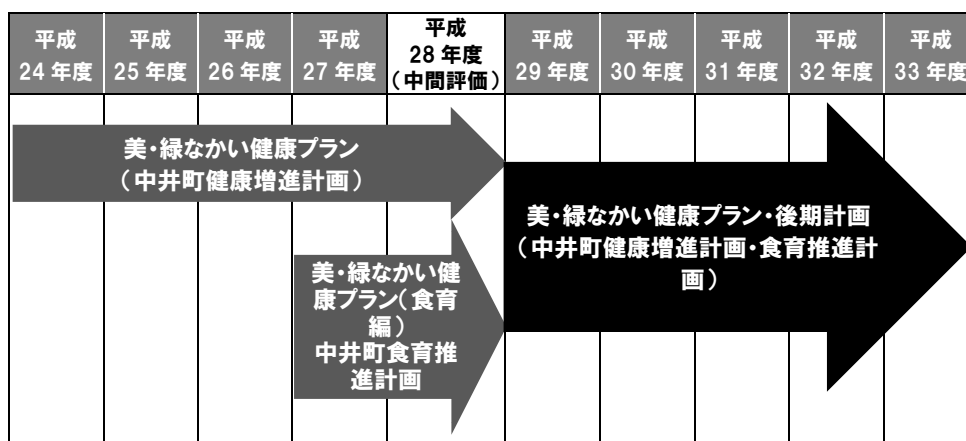


第 1 章 中間評価、実施計画見直し

1 本報告書の位置づけ

中井町においては、平成 23 年度に「美・緑なかい健康プラン（中井町健康増進計画）」が作成され、平成 24 年度から平成 33 年度を計画期間として実施されている。また、平成 26 年度に「美・緑なかい健康プラン（食育編）（中井町食育推進計画）」が作成され、平成 27 年度から平成 33 年度を計画期間として実施されている。これらの計画は、「第五次中井町総合計画」（平成 18 年度～平成 27 年度）に基づいているが、この間に見直しされ、「第六次中井町総合計画」（平成 28 年度～37 年度）が策定されている。また、「中井町子ども・子育て支援事業計画」（平成 27 年度～31 年度）も策定された。さらに、平成 28 年 2 月、保健福祉センターに町民の健康づくり・体力づくりの拠点として「なかい健康づくりステーション」が設置され、神奈川県より未病センターの認証を受けたことなど、本計画の事業と連携し、より効果的な推進を目指した新たな取り組みも始まっている。これらを踏まえ、これまでの本計画の実施状況につき中間評価を行って計画を見直し、平成 29 年度から平成 33 年度の実施計画を策定した。本報告書で改定された該当ページは、「美・緑なかい健康プラン（中井町健康増進計画）」にあつては「第 7 章 実施計画」のうち 72 ページから 85 ページ、「美・緑なかい健康プラン（食育編）（中井町食育推進計画）」にあつては「第 6 章 実施計画」のうち 32 ページから 36 ページである。当該ページは、平成 29 年以降は本報告書の記述に差し替えされたものとして取り扱われたい。



2 中間評価、実施計画見直しの方法

平成 27 年度までの事業の実施状況についての中間評価、ならびに平成 29 年度からの実施計画の策定については、以下の 4 段階で行った。

第 1 段階「中間評価①」

「美・緑なかい健康プラン（中井町健康増進計画）」の全 21 事業につき、平成 27 年度までの実施状況について事業評価を行い、問題点・課題を整理し、今後の継続、統合、変更、廃止の提案を行い、中井町健康増進計画・食育推進計画推進委員会において検討のうえ、今後の方向性を決定した。

第 2 段階「施策整理案作成」

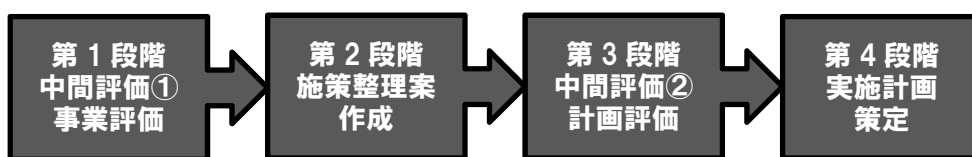
中間評価①の決定結果に従い、各担当者が協議し、事業の再編成案を作成した。更に、食育推進計画の 4 事業も入れ、健康増進計画・食育推進計画全体の事業の再編成案を作成した。

第 3 段階「中間評価②」

施策整理案につき、平成 28 年度以降の実施に向けての計画評価を行い、問題点・課題を整理し、中井町健康増進計画・食育推進計画推進委員会において検討のうえ、今後の方向性を決定した。

第 4 段階「実施計画策定」

中間評価②に基づき実施計画を策定し、中井町健康増進計画・食育推進計画推進委員会において検討のうえ、決定した。



3 中間評価①「事業評価」(第1段階)

健康増進計画の各事業につき、評価用一覧表を作成した。一覧表には事業の概要、事業段階を明示し、平成27年度までの評価を記入した。評価については「事業評価」のストラクチャー、プロセス、アウトプット、アウトカムの4つの軸、ならびに事業担当者の負担感、今後の継続の方向性、および問題点・課題を挙げた。

この一覧表に基づき、中井町健康増進計画・食育推進計画推進委員会において、協議を行い、今後の方向性として「1.事業を終了すべき」、「2.事業内容を変更すべき」、「3.他の事業と統合すべき」、「4.そのまま継続実施すべき」の4段階の評価を行った。

1) 乳幼児期

乳幼児期は、5事業のうち2事業(1-1 子育て応援隊、1-3 幼児が遊びやすい公園環境の整備)は子ども子育て支援事業において実施すべきとして、「1.終了」と判定された。また2事業(1-2 幼児のいる家庭も対象とした親子クッキング、1-5 おじいちゃんおばあちゃんのための育児講座)は他事業への「3.統合」となった。その結果、「4.継続」事業は1事業(1-4 親子が集う交流の場「わきあいひろば」の利用促進・活用)となった。

2) 学童期・思春期

学童期・思春期については4事業のうち2事業(2-2 身体を動かして健康度アップ作戦!!、2-3 薬物乱用防止(タバコ・酒・薬物))は学校等で推進するのが適切として「1.終了」と判定された。その結果、「4.継続」事業は2事業(2-1 節約・時短朝食コンテスト!!、2-4 電子レンジdeクッキング)となった。

3) 青壮年期

青壮年期では、5事業のうち2事業が事業内容の「2.変更」をして継続、1事業が他事業との「3.統合」と判定された。「4.継続」事業は2事業(3-1 禁煙応援\(^o^)/作戦、3-4 働く世代のこころの健康づくり)となった。

4) 中年期

中年期では、4事業のうち3事業が事業内容の「2.変更」をして継続と判定された。「4.継続」事業は1事業(3-1 健診を受けてポイントゲット!)となった。

5) 高齢期

高齢期では、3事業のうち1事業は他事業との「3.統合」と判定された。「4.継続」事業は2事業(5-1 シニア体力測定の実施・高齢者の体力向上、5-2 シニア入門リーフレット配布・シニア入門講座)となった。

1) 乳幼児期

ライフステージ	事業番号	事業名	事業概要	事業段階	平成27年度までの評価		
					ストラクチャー	プロセス	アウトプット
					1.未検討 2.計画検討中 3.事業着手中 4.事業実施中 5.事業終了検討 6.事業終了済	事業推進組織が確立できたか(1.ほとんどできていない、2.確立に向けて努力中、3.大体できた、4.強固な組織ができています)	事業がうまく動いているか(1.ほとんど動いていない、2.一部しか実施できていない、3.大体動くようにはなっている、4.とてもうまく動いている)
1	1	子育て応援隊	乳幼児の子育てに必要な情報配信や一時預かりなどを行い、子育て中の保護者の精神的ストレスの軽減を図り、ひいては乳幼児の健康増進に寄与する。	3 (着手中)	3 (大体確立)	2 (一部実施)	2 (参加者少ない)
1	2	幼児のいる家庭も対象とした親子クッキング	近年、食生活の乱れが指摘されており、中井町でも偏食や食べず嫌いの子どもがみられる。また、共働きの家庭も増えていることから幼児の栄養バランスの乱れの懸念もある。実践を通して栄養バランスについて親子で学ぶことで、幼児の健康な身体づくりに寄与する。 1親子クッキングの開催 2手作りメニューレシピの配布 3手作りクッキングコンテスト	4 (実施中)	3 (大体確立)	3 (大体動く)	4 (対象者全員参加)
1	3	幼児が遊びやすい公園環境の整備	子どもと保護者が安心して外遊びができる環境整備・遊び方の情報提供を行い、親子の健康増進に寄与する。	4 (実施中)	3 (大体確立)	3 (大体動く)	3 (参加者まあまあ)
1	4	親子が集う交流の場「わきあいひろば」の利用促進・活用	家にもりがちな0～1歳児期の保護者を中心とした乳幼児のいる家庭に対し、子どもの遊び場となり、親子で友達づくりができる場となるよう利用を促進することで、保護者の精神的ストレスの軽減を図る。結果として乳幼児の健康増進に寄与する。	4 (実施中)	3 (大体確立)	3 (大体動く)	2 (参加者少ない)
1	5	おじいちゃんおばあちゃんのための育児講座	人口の高齢化の反面、若々しい高齢者が急増している。そこで、祖父母の育児参加を推進することで、円満な家庭環境における子どもの健やかな成長を促進し、同時に子育て中の保護者の負担の軽減を図る	2 (検討中)	1 (未確立)	1 (殆ど動かず)	未実施

平成27年度までの評価				総合評価 (推進委員会)
アウトカム	担当者の負担感	今後の継続	問題点・課題	
事業に対する参加者・町民の満足度はどうか(1.把握できていない、2.あまり高くない、3.まあまあ、4.とても高い)	1.通常業務に支障をきたすほど負担感が高い 2.ある程度負担感が高い 3.負担感はあるが、何とか対応できる 4.あまり負担感はない	1.事業を終了すべき 2.事業内容を変更すべき 3.他の事業と統合すべき 4.そのまま継続実施すべき	現状で障害となっている事項、計画当初と状況が変化している見直すべき事項、その他今後の継続の障害、解決すべき課題などを記述	1.事業を終了すべき 2.事業内容を変更すべき 3.他の事業と統合すべき 4.そのまま継続実施すべき
1 (未把握)	3 (負担感あり)	1 (終了)	本計画策定時には存在していなかった、福祉分野における「子ども・子育て支援事業」が実施されており、28年度より個別一時預かりが開始されるなど、本事業と重複する事業が行われている。 本事業については、対象者である乳幼児期の健康増進を直接図るものではないため、健康増進計画の趣旨からはやや逸脱することから、子育て支援事業で実施するほうがより適切と考えられる。健康増進計画としては終了し、子育て支援事業等に移管すべきと考える。	1 (終了)
4 (満足度高い)	4 (負担感なし)	3 (統合)	「1親子クッキング」はほぼすべての親子に会える3歳児健診で実施している。H27年度から開催し、3回実施した。「2レシピ集の配布」も3歳児健診で実施できている。参加者の反応もおおむね良好と判断されることから、「1親子クッキング」と「2レシピ集の配布」の大幅な見直しは不要と考え継続して実施したい。 また、今後H29年度から実施予定の手作りクッキングコンテストは、忙しい保護者でも簡単にできるメニューの募集が趣旨であることから、本事業からは除外し、2-1「節約・時短朝食コンテスト」と統合しての実施としたい。	3 (統合)
1 (未把握)	2 (負担感高い)	1 (終了)	中井町には児童公園等が数多く存在するが、幼児に特化したものがなく遊ばせにくいという問題提起から始まった事業である。そこで幼児用に特化すべき公園について、母親グループにヒアリングを行い検討してきたが、地域により異なる、年度により異なる、などで絞りきることができなかった。一方で、計画策定時には存在していなかった子ども子育て支援事業計画において「地域子育て支援センター事業」「公園・緑地と自然環境の整備事業」が掲げられていること、また、外遊びの推進においても子育て支援事業のもとで展開していくことがより適切と考え、健康増進計画としては終了とし、子ども子育て支援事業において活動していくべきと考える。	1 (終了)
3 (まあまあ満足)	4 (負担感なし)	4 (継続)	従来から育児相談に併設して実施している事業である。 認知度を高めるため、声をかける月齢・タイミングに応じた内容のチラシを作成し、事業案内を行うようにした。 利用者アンケートも27年度に作成し、開始したところである。 28年度は試行で年6回開催中3回を井ノ口公民館で実施する予定である。	4 (継続)
未実施	未実施	3 (統合)	中井町は三世代家族の割合が高いことから、子育てにおける祖父母世代の参画が期待できる。しかしながら祖父母世代とは子育ての考え方、やり方が変わってしまっているため、祖父母世代としては手を出しにくい、また子育て世代も祖父母世代の支援が得られればありがたいということで企画された事業である。すなわち本事業における直接的な対象者が、乳幼児ではなく、高齢者であることから、乳幼児期の健康増進対策としての実現化が困難であったため、先送りしてきた。したがって本事業については乳幼児期の事業としては検討を終了させ、シニア世代の社会参加推進に関わる内容として5-2「シニア入門講座」等で取り上げていくべきと考える。	3 (統合)

2) 学童期・思春期

ライフステージ	事業番号	事業名	事業概要	事業段階	平成27年度までの評価		
					ストラクチャー	プロセス	アウトプット
					1.未検討 2.計画検討中 3.事業着手中 4.事業実施中 5.事業終了検討 6.事業終了済	事業推進組織が確立できたか(1.ほとんどできていない、2.確立に向けて努力中、3.大体できた、4.強固な組織ができています)	事業がうまく動いているか(1.ほとんど動いていない、2.一部しか実施できていない、3.大体動くようにはなっている、4.とてもうまく動いている)
2	1	節約・時短朝食コンテスト！！	育ちざかりの学童・思春期の子ども達にとって、朝食を摂ることが重要だが、朝の忙しい中で朝食を食べる時間が無い、用意されていないなどで朝食を食べられない子どもがいる。親子を巻き込んだ取り組みを行うことにより、朝食の必要性を再確認するとともに毎日の朝食を無理なく用意でき、朝食欠食「0」となるよう促進する。忙しい保護者でも、子どもだけでも簡単にできるメニューの募集を行う。	2 (検討中)	1 (未確立)	未実施 (28年度関係機関との調整)	未実施 (29年度より実施)
2	2	身体を動かして健康度アップ作戦！！	町立小学校(2校)・中学校(1校)において児童生徒に馴染みのある中井音頭の活用や、その他の身体を動かす活動を定期的に取り組むことと同時に、児童生徒・その保護者、地域住民に向け身体を動かす効果などの情報を発信する。	2 (検討中)	1 (未確立)	1 (殆ど動かず)	当プランとして未実施
2	3	薬物乱用防止(タバコ・酒・薬物)	中学校(全校生徒対象)で当事者や日頃当事者とかかわりのある専門家による講演会の実施。	4 (実施中)	3 (大体確立)	4 (うまく動く)	4 (対象者全員参加)
2	4	電子レンジdeクッキング	火を使わずに子どもができる電子レンジを使った簡単でバランスのとれたおやつやおかずの作り方と知識の普及を子ども自身を対象に行うことにより、おやつや偏食・塩分に対する意識変容や健康関心の向上を図る。	4 (実施中)	3 (大体確立)	3 (大体動く)	3 (参加者まあまあ)

平成27年度までの評価				総合評価 (推進委員会)
アウトカム	担当者の負担感	今後の継続	問題点・課題	
事業に対する参加者・町民の満足度はどうか(1.把握できていない、2.あまり高くない、3.まあまあ、4.とても高い)	1.通常業務に支障をきたすほど負担感が高い 2.ある程度負担感が高い 3.負担感はあるが、何とか対応できる 4.あまり負担感はない	1.事業を終了すべき 2.事業内容を変更すべき 3.他の事業と統合すべき 4.そのまま継続実施すべき	現状で障害となっている事項、計画当初と状況が変化して見直すべき事項、その他今後の継続の障害、解決すべき課題などを記述	1.事業を終了すべき 2.事業内容を変更すべき 3.他の事業と統合すべき 4.そのまま継続実施すべき
未実施	2 (負担感高い)	4 (継続)	平成28年度より関係機関との調整をし新規に実施する事業である。また忙しい保護者でも簡単にできるメニューの募集が趣旨である1-2「幼児のいる家庭も対象とした親子クッキング」事業の手作りクッキングコンテストは本事業と同じ29年度からの実施予定となっており、趣旨が類似していることから統合しての実施としたい。さらに電子レンジでの調理は時短にもなり、2-4「電子レンジdeクッキング」事業とも連携をとって開催したいと考える。	4 (継続)
当プランとして未実施	当プランとして未実施	1 (終了)	当プランの着手と同時期に各校において独自に身体活動場を増やす取り組みが始まっていた。各校の目標等に沿って、校内活動の様々な場面で身体を動かす時間が設けられており、継続実施されている。また、健康だより等による情報発信も定期的実施されていることがプロジェクト会議において確認できている。以上のことから、当プランとして独自に、あるいは学校事業と協働して取り組むなどの介入は行わなかった。活動が継続実施されていること、校内活動に対しては各校の方針に沿って行われることがスムーズであることから、当プランの事業としては検討を終了し、事業から除外すべきと判断する。地域においては、教育課の参加型事業や、プラン4-2『1日1体操!』において学童期・思春期の子どもたちも広く参加を周知する方針のため、そちらの取り組みを進めることで身体活動の提供が可能と考える。	1 (終了)
4 (満足度高い)	4 (負担感なし)	1 (終了)	従来から中井中学校において年1回薬物乱用防止を目的とした講演会は実施されていたが、より効果的な事業にするため、講師選定や内容について当プロジェクトにより見直し、実施してきた。当事者や日頃当事者に接している専門職など講師依頼のルートも出来、予算も実施部署(教育課)で確保できている。このため、当プランの事業としては終了してよいと判断する。なお、今後学校側からの相談があれば、その時点で対応することとしたい。	1 (終了)
4 (満足度高い)	4 (負担感なし)	4 (継続)	食生活改善推進協議会(いくみ会)による小中学生およびその保護者を対象とした料理教室において、電子レンジレシピを加えて開催している。H27年度から開催し、2回実施した。同時に学校栄養士による献立だよりに献立に挙げた料理の電子レンジによるレシピ紹介なども開始されている。実質的な着手がH27年度からだったこと、実施者および参加者の反応もおおむね良好と判断されることから、事業の大幅な見直しは不要と考える。また、今後は2-1『節約・時短朝食コンテスト』とも連携が図れる可能性もあるため継続して実施したい。	4 (継続)

3) 青壮年期

ライフステージ	事業番号	事業名	事業概要	事業段階	平成27年度までの評価		
					ストラクチャー	プロセス	アウトプット
					1.未検討 2.計画検討中 3.事業着手中 4.事業実施中 5.事業終了検討 6.事業終了済	事業推進組織が確立できたか(1.ほとんどできていない、2.確立に向けて努力中、3.大体できた、4.強固な組織ができています)	事業がうまく動いているか(1.ほとんど動いていない、2.一部しか実施できていない、3.大体動くようにはなっている、4.とてもうまく動いている)
3	1	禁煙応援(°^)/作戦	禁煙したい人や喫煙本数を減らしたい人、禁煙を考え始めている人に対し、適切な応援をすることにより禁煙を実現し、喫煙による健康への害を防ぐ	4 (実施中)	3 (大体確立)	3 (大体動く)	3 (参加者まあまあ)
3	2	自分の体力に合った運動プログラムづくり	青壮年期では運動をしていない人が半数を超えるが運動を始めたいと考えている方も多かったという調査結果より、自分の体力や生活スタイルに合った運動プログラムの提供と継続しやすい環境づくりを行うことにより、運動の実践を促進する。	4 (実施中)	3 (大体確立)	3 (大体動く)	2 (参加者少ない)
3	3	栄養バランスを考えて食べよう！メッセージの発信	食生活における課題を感じていても、多忙並びに不規則な生活になりがちな世代の方が、食品の購入時に手軽に情報を手にできる環境を作ることにより、少しでも栄養バランスを考えた食事を摂り、生活習慣病の予防につなげていくため。	3 (着手中)	2 (確立努力中)	2 (一部実施)	未実施
3	4	働く世代のこころの健康づくり	ストレス状態の自己チェック票の活用を住民へ普及啓発する。 本人または家族からの相談に対応する。	4 (実施中)	3 (大体確立)	3 (大体動く)	3 (参加者まあまあ)
3	5	健康づくりのまちアピールキャンペーン	ホームページやタウン誌、新聞、湘南ケーブルテレビ等で健康づくり情報を配信する。町内外に向けて情報をアピール。	4 (実施中)	3 (大体確立)	3 (大体動く)	3 (参加者まあまあ)

平成27年度までの評価				総合評価 (推進委員会)
アウトカム	担当者の負担感	今後の継続	問題点・課題	
事業に対する参加者・町民の満足度はどうか(1.把握できていない、2.あまり高くない、3.まあまあ、4.とても高い)	1.通常業務に支障をきたすほど負担感が高い 2.ある程度負担感が高い 3.負担感はあるが、何とか対応できる 4.あまり負担感はない	1.事業を終了すべき 2.事業内容を変更すべき 3.他の事業と統合すべき 4.そのまま継続実施すべき	現状で障害となっている事項、計画当初と状況が変化して見直すべき事項、その他今後の継続の障害、解決すべき課題などを記述	1.事業を終了すべき 2.事業内容を変更すべき 3.他の事業と統合すべき 4.そのまま継続実施すべき
1 (未把握)	1 (負担超高い)	4 (継続)	四半期に1枚禁煙応援ポスターを作成し掲示している。ポスター作成にノウハウがなく、1枚作成に大変時間がかかり負担感が高い。H28年7月から9月まで4枚目のポスターを掲示すると1巡するので、新たなポスター作成は今後せず、作成したポスター4枚の活用や、禁煙貯金箱のPRをし、負担感を落とし継続できる禁煙応援方法を検討していく。	4 (継続)
1 (未把握)	2 (負担感高い)	2 (変更)	26年度27年度と測定会を実施しているが青年期の参加者はない。また測定会だけの募集では人数が集まらないため、スポ・レク祭や子育てサークル行事とのタイアップにて、参加者を募っている。 本事業の方法としては参加者のフォローアップや運動推進リーダーの育成、運動グループの継続活動が挙げられているが、継続して参加する者はないため、グループ化は困難である。H27年度のプロジェクトチーム会議でも、「この世代のライフスタイルは様々であり、運動したい人は既に自分に合ったスポーツ団体に所属したり個人的に走ったり、筋トレ等をしており、当事業には参加してこない。従ってグループ化は難しい。」と結論付けられた。 そこで今後は、事業内容を変更したい。グループ化やリーダー育成については廃止。自分の体力を知る機会として有効な体力測定会は「5-1シニア体力測定の実施・高齢者の体力向上」の体力測定会との共同開催で継続する。 また、測定後のフォローアップは、町事業や町内のスポーツ団体、運動グループを紹介する情報提供等、ライフステージに合わせた方法を検討していく。	2 (変更)
未実施	2 (負担感高い)	2 (変更)	本事業は、町内の食品販売店に、より健康的な食材選択のヒントとなる情報カードを掲示してもらおうという事業内容を企画していた。町民の栄養バランス向上の効果と同時に、食品販売店にとっても販売促進につながるという一石二鳥を狙ったものである。そこで、メニュー選び情報カード、リーフレット(案)を作成し、内容の検討を行ってきた。しかしながら、町内の食品販売店が閉鎖するなどして、現時点ではコンビニエンスストアを対象とせざるを得ない状況となっている。そのため関係者打合せをし、コンビニエンスストアでの情報カード掲示の可能性について情報収集を行ったところ、可能性のある地元コンビニエンスストアは1か所のみであり、その他は全国チェーンであることから、掲示等の規制が厳しいということであった。民間事業者1店舗のみで本事業を実施するのは、公的事業としての妥当性の批判は免れない。 したがって、事業内容を変更し、スポ・レク祭等若壮年期が集まる場での情報発信、健康情報コーナーでの情報提供(4-4「いつでも分かる健康情報」との統合)等を行うこととしたい。	2 (変更)
1 (未把握)	4 (負担感なし)	4 (継続)	本事業は、町福祉課と連携を図りながら取り組んでいる。忙しい世代が対象であることから、「1分できる」をキーワードにストレスチェック票を作成し、配布・活用を進めている。町HPからも見ることができ、相談先などの情報も盛り込んでいる。 チェック票の利用から保健師への相談はほとんどないが、町内施設への配架が未着手であることや、福祉課関連事業との連携でもまだ改善の余地があると思われるため、継続実施し、チェック票の周知・利用の促進をはかりたい。	4 (継続)
1 (未把握)	2 (負担感高い)	3 (統合)	中井町民は、町外からの評価に敏感であることから、主に町外に向けて情報発信し評価を高めるといふ、間接効果をねらった事業である。しかしながら本事業では、さまざまな手段で「健康づくりのまち中井町」をアピールするという「手段」のみが強調されており、どのような情報を発信するかと言う「中身」が不明確な状態である。一方で、情報を配信するという事業内容や関係団体、担当部署は4-4「いつでも分かる健康情報」と同じであるため、事業当初より本事業とプロジェクトの同時開催を行っていた。したがって、本事業の趣旨は受け継いだうえで、全てのライフステージの健康情報、健康づくりの情報を整理し配信する4-4に一本化すべきと考える。	3 (統合)

4) 中年期

ライフステージ	事業番号	事業名	事業概要	事業段階	平成27年度までの評価		
					ストラクチャー	プロセス	アウトプット
					1.未検討 2.計画検討中 3.事業着手中 4.事業実施中 5.事業終了検討 6.事業終了済	事業推進組織が確立できたか(1.ほとんどできていない、2.確立に向けて努力中、3.大体できた、4.強固な組織ができています)	事業がうまく動いているか(1.ほとんど動いていない、2.一部しか実施できていない、3.大体動くようにはなっている、4.とてもうまく動いている)
4	1	働き盛りのウォーキングのすすめ	きっかけがあれば“歩くことに”取り組みたいと考えている方が日常生活の中でウォーキングを継続できるようにするため、歩数計・ウォーキング記録帳・リーフレットの配布、ウォーキング講習会の土・日開催、ウォーキングポイント登録制度等を実施する。	4 (実施中)	3 (大体確立)	3 (大体動く)	ウォーキング講習会： 3 (参加者まあまあ) ウォーキングポイント登録制度： 2 (参加者少ない)
4	2	1日1体操！	多くの人が既知に知っている体操を活用すること、決まった時間に音楽が聞こえることで、体操が日課となるよう促進する。	4 (実施中)	2 (確立努力中)	2 (一部実施)	2 (参加者少ない)
4	3	健診を受けてポイントゲット！	働く世代の方が健診と身体を動かすことに“お得感”を持って取り組めるよう、ポイント制度を導入し、受診率向上と運動習慣のある人の増加を図る。	4 (実施中)	2 (確立努力中)	3 (大体動く)	3 (参加者まあまあ)
4	4	いつでも分かる健康情報	就労されている方が多い世代のため、タイムリーに必要な情報を使いやすい方法で入手し、活用しやすくなるよう、中井町の健康づくりに関する事業の情報を町ホームページや広報紙、健康づくりカレンダー、チラシ等、様々な媒体で提供する。 1町ホームページに健康づくり関連コーナーを開設 2健康づくりカレンダーの作成・配布 3健康づくりイベントのチラシ作成・配布 4町内医療機関にチラシ設置・ポスター掲示依頼 5事業案内の同封、封筒余白への広告印刷 6ケーブルテレビに健康情報コーナー 7事業参加者の情報入手方法の確認	4 (実施中)	3 (大体確立)	3 (大体動く)	3 (参加者まあまあ)

平成27年度までの評価				総合評価 (推進委員会)
アウトカム	担当者の負担感	今後の継続	問題点・課題	
事業に対する参加者・町民の満足度かどうか(1.把握できていない、2.あまり高くない、3.まあまあ、4.とても高い)	1.通常業務に支障をきたすほど負担感が高い 2.ある程度負担感が高い 3.負担感はあるが、何とか対応できる 4.あまり負担感はない	1.事業を終了すべき 2.事業内容を変更すべき 3.他の事業と統合すべき 4.そのまま継続実施すべき	現状で障害となっている事項、計画当初と状況が変化して見直すべき事項、その他今後の継続の障害、解決すべき課題などを記述	1.事業を終了すべき 2.事業内容を変更すべき 3.他の事業と統合すべき 4.そのまま継続実施すべき
4 (満足度高い)	2 (負担感高い)	2 (変更)	ウォーキング講習会は、勤務が平日の町民も参加できるように、休日開催とした。参加者の大部分は高齢期の方であり、働き盛りの方の参加促進が難しいものの、一定程度の参加が見込めるので継続したい。また、ウォーキングポイント登録制度を創設したが、高得点者表彰については、歩数が多いほどよいと考えて頑張りすぎる方がいること、4-3「健診を受けてポイントゲット！」でポイントが付く対象事業としていることを踏まえ、表彰のあり方や内容の見直しを行いたい。	2 (変更)
1 (未把握)	2 (負担感高い)	2 (変更)	当初、定時に体操をすることが日課になることを狙った手法の一つである防災無線の活用は、目的外使用のため不可と担当課より回答があり、断念せざるを得なくなった。しかし、体操を普及する「なかい体操サポーター」の養成は隔年に実施し、47名が修了している。現状ではサポーターの養成のみにとどまっており、地域の活動の場や体操の定例開催にまで至っていない。今後は、この人材の活用を事業の核にした教室やサロン活動の開催を目指したい。事業の展開方法についてはサポーターと共に検討し、住民が体操に取り組みやすい環境づくりをはかりたい。	2 (変更)
4 (満足度高い)	2 (負担感高い)	4 (継続)	特定健診やがん検診の受診等にポイントを得ても、ポイント交換に来る人数が少ない。初年度の実施結果から対象年齢と対象事業を拡大して改善を図ったが、参加したくなるような事業内容の検討と周知活動は引き続き必要である。	4 (継続)
1 (未把握)	3 (負担感あり)	2 (変更)	6湘南ケーブルネットワークで情報コーナーを作ることについては、提供する情報の作成や相手方との調整等に大きな手間を要すること、また、取り上げるかどうかの決定権が町側にはない。一方で、湘南ケーブルネットワークを視聴する町民が多くないこともあり、取り組みの効果が見込めないため、廃止することとしたい。その他の事項については、「3-5健康づくりのまちアピールキャンペーン」と統合し、様々な媒体での情報提供を推進したい。	2 (変更)

5) 高齢期

ライフステージ	事業番号	事業名	事業概要	事業段階	平成27年度までの評価		
					ストラクチャー	プロセス	アウトプット
					1.未検討 2.計画検討中 3.事業着手中 4.事業実施中 5.事業終了検討 6.事業終了済	事業推進組織が確立できたか(1.ほとんどできていない、2.確立に向けて努力中、3.大体できた、4.強固な組織ができています)	事業がうまく動いているか(1.ほとんど動いていない、2.一部しか実施できていない、3.大体動くようにはなっている、4.とてもうまく動いている)
5	1	シニア体力測定の実施・高齢者の体力向上	中井町において、高齢期の半数以上の人が週1～2日以下しか運動しておらず、その多くが個人レベルで行われているため、効果や継続性に懸念がある。そこで、自分の現状の体力・運動機能を知り、自分に合った効果的な運動のやり方が分かることにより、目標をもって運動習慣がつけられ、ひいては中井町における健康で活力にありふれた高齢者づくりに寄与できる。	4 (実施中)	3 (大体確立)	3 (大体動く)	2 (参加者少ない)
5	2	シニア入門リーフレット配布・シニア入門講座	高齢期は、退職や社会での役割変化に伴い生活スタイルの変化が余儀なくされる一方、新しい生活リズムの獲得が必ずしも円滑に行かず、健康問題が惹起されることも多い。そこで、新しい生活スタイルへの受容を促進し不適應を最小限にするため、情報入手機会と社会参画機会を提供することにより、高齢期の健康増進を図る。	2 (検討中)	1 (未確立)	1 (殆ど動かず)	未実施
5	3	高齢期男性の健康づくり・仲間づくり推進：「おやじの会」	定年による生活リズムの変化の中で、外出の機会が減ったり、新しい役割が見つけられないことによる閉じこもり等により、健康を害する恐れがある。ところが、中井町では男性が多く参加している自主活動サークルが殆どない。今後さらに高齢者が増加することから、特に高齢男性の健康増進のため、男性の自主活動の推進は重要である。	4 (実施中)	3 (大体確立)	3 (大体動く)	3 (参加者まあまあ)

平成27年度までの評価				総合評価 (推進委員会)
アウトカム	担当者の負担感	今後の継続	問題点・課題	
事業に対する参加者・町民の満足度はどうか(1.把握できていない、2.あまり高くない、3.まあまあ、4.とても高い)	1.通常業務に支障をきたすほど負担感が高い 2.ある程度負担感が高い 3.負担感はあるが、何とか対応できる 4.あまり負担感はない	1.事業を終了すべき 2.事業内容を変更すべき 3.他の事業と統合すべき 4.そのまま継続実施すべき	現状で障害となっている事項、計画当初と状況が変化して見直すべき事項、その他今後の継続の障害、解決すべき課題などを記述	1.事業を終了すべき 2.事業内容を変更すべき 3.他の事業と統合すべき 4.そのまま継続実施すべき
3 (まあまあ満足)	2 (負担感高い)	4 (継続)	本事業では、町民の運動の習慣化を支援するための「体力測定ボランティア」の養成、各種イベントやシニア向けの体力測定会における協力依頼などを行い、高齢者の運動の習慣化の支援体制を構築してきた。また、高齢者が自身の体力・運動機能を知る場として、体力測定会の定期開催も行ってきた。しかしながら、これまで事業に参加された高齢者の継続的な取り組みを目的とした自主グループの立ち上げ・支援の実施までには至っていない。 今後も体力測定会を継続開催しつつ、前述の課題を解決するため、既存の各種高齢者事業の紹介・活用等を行い、その上で自主グループ化へ派生できる支援体制づくりに努めたい。	4 (継続)
未実施	未実施	4 (継続)	平成27年度から事業計画に着手し、平成28年度は、関係機関とプロジェクト会議を実施し、リーフレットの内容検討や講座開催の計画を行う。それらを踏まえたうえで、リーフレットの配布と講座を実施していく。実施と同時に問題点等の把握に努め、平成29年度のリーフレットおよび講座の内容修正に反映させていく。	4 (継続)
4 (満足度高い)	3 (負担感あり)	3 (統合)	本事業については当初より、「より健康になるようアクティブな健康習慣を獲得する」という健康増進計画の趣旨とはやや外れ、引きこもりによる体力の低下、生活習慣病の発症、介護生活への移行を防止する「介護予防」事業的性格が強かった。一方、高齢期の「健康づくり・仲間づくり」という観点では、現在、第6期中井町高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画において、サロン活動や介護予防普及啓発を推進していることから、本事業と重複する状況となっている。したがって、本事業については高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画へ移行し、高齢期男性の自主活動の支援を引き続き行うこととすべきと考える。	3 (統合)

4 「施策整理案作成」(第2段階)

中間評価①において健康増進計画 21 事業が 13 事業に統廃合された（中間評価①後施策）。これと食育推進計画の 4 事業につき、施策整理案を作成した。整理点のひとつは食生活・食育関連事業をこども向け（2-1 なかいつ子 わくわく食学び大作戦）と大人向け（3-3 元気食でおとなの健康づくり）に整理したことである。もうひとつは体力測定・体力づくりを青壮年期から高齢期の一本化を図ったことである（3-2 おとなの体力up事業）。その他の事業については、中間評価①の推進委員会での決定通りとした。この結果、施策整理案は全 11 事業となった。



5 中間評価②「計画評価」(第3段階)

施策整理案の11事業につき、評価用一覧表を作成した。一覧表には新しい事業番号、事業名と対照となる旧事業番号・事業名、事業概要を示した。また、平成28年度以降の実施に向けた評価を記入した。なお、後期計画は平成29年度からではあるが、一部の事業については平成28年度事業において反映できるものもある可能性も想定し、「平成28年度以降の実施に向けた評価」としている。評価については「計画評価」のコスト面、事業の実施容易性、利害関係者の調整容易性、ならびに健康増進計画の目的である健康増進効果、健康増進の最終目的である医療費低減効果の5つの軸とした。これらを各1～5の5段階で評価し、評価平均点を100点満点で換算して示した。また、今後推進する上での問題点・課題を挙げた。

この一覧表に基づき、中井町健康増進計画・食育推進計画推進委員会において、協議を行い、今後の方向性として「1.事業を廃止すべき」、「2.事業内容を変更すべき」、「3.他の事業と統合すべき」、「4.原案通り実施すべき」の4段階の評価を行った。なお、協議の結果、全事業について「4.原案通り実施すべき」と評価された。

1)乳幼児期

乳幼児期は、1事業(1-1親子が集う交流の場「わきあいひろば」の利
用促進・活用)を継続実施することとなった。

2)学童期・思春期

学童期・思春期については1事業(2-1なかいっ子 わくわく食学び
大作戦)のみであるがこれはこどもの食生活改善・食育の関連事業5事
業を統合したものである。

3)青壮年期

青壮年期は4事業であるが、前期と同じものは2事業(3-1禁煙応援
＼(^o^)/作戦、3-4働く世代のこころの健康づくり)となっている。2事
業(3-2おとなの体力up事業、3-3元気食でおとなの健康づくり)は青
壮年期から高齢期までを包含したものとなっている。

4)中年期

中年期では、全4事業とも一部内容が変更された程度で、基本的に継
続事業となっている。

5)高齢期

高齢期では、1事業(5-1『シニア入門リーフレット配布・シニア入門
講座』)のみが挙げられた。事業名は前期と同じであるが、前期におい
ては乳幼児期事業として挙げられていた『おじいちゃんおばあちゃんのため
の育児講座』を包含して再構築された。

1) 乳幼児期～青壮年期

ライフステージ	事業番号	事業名	旧事業番号・事業名	事業概要	コスト面	事業の実施容易性
					5.全コストがかからない 4.殆どコストがかからない 3.現予算の調整で可能 2.予算要求すれば通りそう 1.巨額な費用がかかり困難	5.現状の体制・人員で容易に実施可能 4.多少の応援があれば行えそう 3.担当者を入れれば実施可能 2.新たな体制・人員配置が必要 1.新たな体制・人員でも困難
1.乳幼児期	1	親子が集う交流の場「わきあいひろば」の利用促進・活用	【1-4】親子が集う交流の場「わきあいひろば」の利用促進・活用	家にももりがちな0～1歳児期の保護者を中心とした乳幼児のいる家族に対し、子どもの遊び場を提供するとともに、親子が地域で友達づくりができるよう支援し、子育て中の保護者の精神的ストレスの軽減を図り、ひいては乳幼児の健康増進に寄与する。 育児相談に併設している「フリースペースわきあいひろば」の継続開催。さらに開設会場の検討・改善。	5	5 「フリースペースわきあいひろば」の担当者のみで実施可能なため、新たな人員を必要としない。
2.学童期・思春期	1	なかいっ子わくわく食学び大作戦	【1-2】幼児のいる家庭も対象とした親子クッキング 【2-1】節約・時短朝食コンテスト 【2-4】電子レンジdeクッキング 【食育1-1】子どものためのクッキング教室 【食育1-2】なかいっ子 食学び大作戦～こどものための食育情報配信～	近年、食生活の乱れが指摘されており、中井町でも偏食や食わず嫌いの子どもがみられる。また、共働きの家庭も増えていることから子どもの栄養バランスの乱れの懸念もある。実践を通して栄養バランスについて親子で学ぶことで、子どもの健康な身体づくりに寄与する。 1. 親子クッキング開催と手作りレシピの配布 2. 忙しい保護者や子どもだけでも簡単にできるメニューの紹介と料理教室 3. 手作りクッキングコンテスト 4. 食育情報配信	3	4 関連部署の教育課(町内小中学校、こども園)給食センター栄養士、食生活改善推進団体、環境経済課の連携が必要。
3.青壮年期	1	禁煙応援(ˆoˆ)／作戦	【3-1】禁煙応援(ˆoˆ)／作戦	禁煙したい人や喫煙本数を減らしたい人、禁煙を考え始めている人に対し、ポスター掲示や禁煙貯金箱配布、個別の禁煙相談や禁煙外来のある医療機関の紹介等にて応援することにより禁煙を実現し、喫煙による健康への害を防ぐ。	4	4 啓発活動に企業等の応援が必要だが、今まで協力はいただけているので、今後もいただけたらと考えている。
3.青壮年期	2	おとなの体力up事業	【3-2】自分の体力に合った運動プログラムづくり 【5-1】「シニア体力測定」の実施・高齢者の体力向上	運動をしていない人は青壮年期、中年期に多く、高齢期も半数以上の人が週1～2日以下しか運動をしていない。 そこで、体力測定会を開催し自分の現状の体力・運動機能を知る。自分に合った効果的な運動の仕方がわかることで、運動に興味をもち、継続した運動習慣となることを期待する。また、町事業や町内のスポーツ団体、運動グループを紹介することにより、様々なライフスタイルに合わせた運動方法を選択できるようにする。	4	4 測定にボランティアの応援が必要であり、また参加者獲得のためには健康課関係団体以外へのアプローチが必要
3.青壮年期	3	元気食でおとなの健康づくり	【3-3】栄養バランスを考えて食べよう！メッセージの発信 【食育2-1】炊飯器でクッキング 【食育2-2】減塩を意識して健康づくり	多忙並びに不規則な生活になりがちな世代の方が、食塩の摂取過剰や低栄養、肥満など食生活における課題が多い一方、自分の食に関する問題意識が低い。外食、惣菜、弁当が多く調理をあまりしない状況にある。炊飯器を使って簡単に安心安全な調理法の普及をさせることにより、食への意識を喚起し、それを通じた健康づくりをする。少しでも栄養バランスを考えた食事を摂り、生活習慣病の予防につなげていくため、情報提供をする。 1. 炊飯器を使ったレシピ紹介と出前指導の実施 2. 既存事業での減塩講話 3. 若い世代の集まる事業でのリーフレット配布	3	4 既存事業で関係する食生活改善推進団体、筋骨体操指導員、若い世代の集まる事業を開催する役所内の担当課の応援があれば可能。

平成28年度以降の実施に向けての評価					
利害関係者の調整容易性	健康増進効果	医療費低減効果	評価平均点 (100点満点換算)	問題点・課題	総合評価 (推進委員会)
5.利害調整が不要 4.健康課内・庁内プロジェクト内の調整で済む 3.役所内・推進委員間プロジェクトチーム内の調整で済む 2.他機関・団体との調整が必要 1.他機関・団体に権限があり調整困難	5.町民全体への効果が見込まれる 4.対象者集団の殆どへの効果が見込まれる 3.参加した人など、一定程度の数への効果が見込まれる 2.あまり効果は見込めない 1.効果のほどは分からない	5.短期に巨額な医療費低減効果が見込まれる 4.短期に一定程度の医療費低減効果が見込まれる 3.長い目で見れば医療費低減効果が確実に見込まれる 2.長い目で見れば効果がありそう 1.医療費低減に寄与するか分からない		事業実施に障害となる問題点、解決すべき課題を記述	1.事業を廃止すべき 2.事業内容を変更すべき 3.他の事業と統合すべき 4.原案通り実施すべき
5 既存事業の活用であるため、特に調整を要しない。	3 参加者からの評価はおおむね良好で、乳幼児の健康増進に寄与できていると思われる。	4 子育て中の保護者の精神的ストレス解消により、育児放棄、虐待など問題行動の防止に寄与すると同時に、身体面の相談に対応することで早期受診につながる場合もあり、このことから、乳幼児の医療費増加を抑制できる。	85	H28年度試行的に開催会場を従来の保健福祉センターだけでなく、井ノ口公民館でも実施している。アンケート結果も踏まえ関係者とH29年度以降の開催について検討する。 保健福祉センター以外での開催は、物品の移動に労力を要するが、大きな障害とはならず、従来のスタッフで対応可能。	4 (原案通り実施すべき)
3 既存事業の活用、連携により、食育情報配信とコンテストを盛り込めるか調整が必要。	4 幼児を対象とした親子クッキングはほぼすべての親子に会える3歳児健診で実施しており、参加者の反応も良い。 学童期対象の忙しい保護者や子どもだけでも簡単にできるメニューの紹介や食育情報の発信は「給食だより」等を利用することにより食について振り返る機会が持てる。	3 親子を巻き込んだ取り組みにより生活習慣病の早期予防が見込まれ医療費低減効果がでると思われる。子どもが自分に必要な栄養の摂り方を理解し、健康に成長するための知識や方法を学ぶことにより長い目で見れば医療費の低減効果があるといえる。	60	3歳児健診時に実施している親子クッキングと同時に配布しているレシピ集は継続。手作りクッキングコンテストと電子レンジクッキング、節約・時短朝食コンテストについては関連部署(教育課、給食センター栄養士、食生活改善推進団体等)との打合せ、内容、周知、予算検討、方法など検討が必要である。	4 (原案通り実施すべき)
2 町内企業での啓発活動のための調整が必要	3 個別の禁煙相談参加や禁煙外来の紹介等により、禁煙につながる可能性があり、健康増進に寄与する。	3 禁煙することにより、生活習慣病や喫煙による健康被害を抑えられるため医療費低減効果はある。 喫煙は健康被害のリスク要因の一つであり、長い目で見れば効果があると言える。	55	現時点でのアプローチ方法としては、ポスターでの啓発と、人の集まるがん検診等での禁煙貯金箱の配布となっている。見てもらう、知ってもらうことが最重要であるが、禁煙貯金箱受取り数も少なく、反応は薄い。 ポスター活用方法や、貯金箱の配布場所、HPでの禁煙コーナー作成等検討し、いかに多くの方(企業も含め)へアプローチできるかが課題と考える。	4 (原案通り実施すべき)
3 参加者獲得のために他課関係団体へのアプローチと事業タイアップの依頼が必要。	3 参加し自分の体力を知ること、日常生活上で少しでも動こうという気持ちになるきっかけとなる。ただし、継続した運動習慣にできるかは今後の課題である。	3 体力測定をすることで、体を動かそうという気持ちになる。体力の維持、体力低下の予防となり、運動不足がリスクとなる転倒・骨折などの疾病予防につながる。	60	青壮年期では、参加者募集のお知らせだけでは集まらない年代であるため他事業のタイアップ等にて参加者を獲得し、多くの方が自分の体力を知ることが大事である。 体力測定会を毎月開催しているが、参加者がいない状況。周知方法について検討していく。	4 (原案通り実施すべき)
3 若い世代が集まる事業(成人式、若い世代の体力測定会等)でのリーフレット配布について役所内の関係課(教育課)と健康課内での調整で可能。	4 出前指導、栄養講話の他、レシピの紹介や栄養バランスを考えた情報をホームページ等で発信をしていく。教室参加者以外へも栄養バランスを考えた食事をとってみようという意識変容や関心の向上効果が見込まれる。	3 減塩への関心を持っている人の増加・減塩実行する人の増加。栄養バランスを考えた食事の情報発信により肥満による生活習慣病や低栄養の発症予防と改善が見込まれる。長い目で見れば医療費低減に寄与する。	60	情報提供の方法のひとつとして町ホームページの健康情報コーナーでの掲載を検討していく必要がある。 他課主催のイベント等でのリーフレット配布については役所内・プロジェクトチーム内での調整の必要がある。	4 (原案通り実施すべき)

2) 青壮年期～高齢期

ライフステージ	事業番号	事業名	旧事業番号・事業名	事業概要	コスト面	事業の実施容易性
					5.全くコストがかからない 4.殆どコストがかからない 3.現予算の調整で可能 2.予算要求すれば通りそう 1.巨額な費用がかかり困難	5.現状の体制・人員で容易に実施可能 4.多少の応援があれば行えそう 3.担当者を入れ替えれば実施可能 2.新たな体制・人員配置が必要 1.新たな体制・人員でも困難
3. 青壮年期	4	働く世代のこころの健康づくり	【3-4】働く世代のこころの健康づくり	疲労度やストレスの状態に気づき、早めに対処できる機会を設けることは、こころの健康の保持増進につながる。 疲労度やストレス状態の自己チェック(自己チェック票の利活用)を含めた普及啓発活動の実施。 ストレス等に伴う身体症状など、随時個別相談により医療機関の紹介をし、早期に専門の医療につながるよう、継続支援の実施。	4 自己チェック票の用紙代のみ	5 日常の業務や活動の中で取り組んでいる内容であるため、現状の人員・体制で容易に実施可能である。
4. 中年期	1	働き盛りのウォーキングのすすめ	【4-1】働き盛りのウォーキングのすすめ	きっかけがあれば“歩くこと”に取り組みたいと考えている方が日常生活の中でウォーキングを継続できるようにするため、歩数計・リーフレットの配布、ウォーキング講習会の土・日開催、ウォーキングポイント登録制度等を実施する。	3 働き盛りの方の参加促進に向けて、事業内容を充実するための新たな予算が必要であるが、現予算内で調整が可能である。	4 働き盛りの方の参加を促進するためのPRや参加の勧め、事業内容の充実に伴う業務について、課内や関係課、健康づくり関係者等の応援が必要である。
4. 中年期	2	1日1体操!	【4-2】1日1体操!	多くの人が既に知っている体操(ラジオ体操等)を活用し、体操が日課となるよう促進するべく、参加者の支援を行う「なかい体操サポーター」の養成を図るとともに、地域の会場(屋外の公園や広場)において、中年期のみならず子どもから高齢者まで広く地域ぐるみで体操を行う体操会を開催する。	3 サポーター養成の講師謝礼に加え町内の公園・広場で体操する際の機材等教室に必要な物品の準備等が必要	4 現任サポーターの協力により実施可能(サポーター組織の体制づくりが必須)
4. 中年期	3	健診を受けてポイントゲット!	【4-3】健診を受けてポイントゲット!	働く世代の方が健診受診と身体を動かすことに“お得感”を持って取り組めるよう、ポイント制度を導入し、受診率向上と運動習慣のある人の増加を図る。	3 より参加しなくなるよう事業内容の検討が必要であるが、現予算内での調整で可能。	4 参加促進のためには関係部署や関係団体等の応援が必要である。
4. 中年期	4	健康情報発信事業	【3-5】健康づくりのまちアピールキャンペーン 【4-4】いつでも分かる健康情報	就労されている方が多い世代のため、タイムリーに必要な情報を使いやすい方法で入手し、活用しやすくなるよう、中井町の健康づくりに関する事業の情報を町ホームページや広報紙、健康づくりカレンダー、チラシ等、さまざまな媒体で提供する。 健康づくりに関する情報にふれる機会を増やすことにより、何かを始めてみよう、続けていこう、との気持ちを高めることにつなげる。	4 印刷費用や消耗品代などの予算確保が必要であるが、現予算の中での実施が可能である。	4 ノウハウ不足により進めることができなかった内容について応援が必要である。
5. 高齢期	1	『シニア入門リーフレット配布・シニア入門講座』	【1-5】『おじいちゃんおばあちゃんのための育児講座』 【5-2】『シニア入門リーフレット配布・シニア入門講座』	高齢期は、退職や社会での役割変化に伴い生活スタイルの変化が余儀なくされる一方、新しい生活リズムの獲得が必ずしも円滑に行かず、健康問題が惹起されることも多い。そこで、新しい生活スタイルへの受容を促進し不適應を最小限にするため、情報入手機会と社会参画機会を提供することにより、高齢期の健康増進を図る。	3 印刷費用や講師費用の予算確保が必要であるが、現予算の中での実施が可能である。	4 講座開催時に応援の人員が必要になる可能性がある。

平成28年度以降の実施に向けての評価					総合評価 (推進委員会)
利害関係者の 調整容易性	健康増進効果	医療費低減効果	評価平均点 (100点満点 換算)	問題点・課題	
5.利害調整が不要 4.健康課内・庁内プロジェクト内の調整で済む 3.役所内・推進委員間プロジェクトチーム内の調整で済む 2.他機関・団体との調整が必要 1.他機関・団体に権限があり調整困難	5.町民全体への効果が見込まれる 4.対象者集団の殆どへの効果が見込まれる 3.参加した人など、一定程度の数への効果が見込まれる 2.あまり効果は見込めない 1.効果のほどは分からない	5.短期に巨額な医療費低減効果が見込まれる 4.短期に一定程度の医療費低減効果が見込まれる 3.長い目で見れば医療費低減効果が確実に見込まれる 2.長い目で見れば効果がありそう 1.医療費低減に寄与するかわからない		事業実施に障害となる問題点、解決すべき課題を記述	1.事業を廃止すべき 2.事業内容を変更すべき 3.他の事業と統合すべき 4.原案通り実施すべき
4 活動内容が重複しないよう、庁内プロジェクトメンバー間で調整をしながら進める必要があるが、体制的に容易である。	3 自らのストレスの状況に気づくことで、より健康なこころの状態を保持できるようになることが期待される。	3 早期に専門機関への相談・受診につながることで長期化するメンタル系の入院治療費が低減する可能性があると思われる。	70	当施策はチェック票をきっかけとした“啓発活動”が主であるため、今後も関係者(現在のプロジェクトメンバー:福祉課・民生委員)と連携を取り、周知活動・機会の拡大や充実が図れる余地があると考えられる。	4 (原案通り実施すべき)
3 働き盛りの方の参加促進に向け、企業や商工会等への声かけが必要のため、調整が必要であるが、関係部署を通じての関係づくりが可能である。	4 事業の充実を図り、PRを強化することにより、事業参加者以外の方の関心も高まり、ウォーキング活動に取り組む人の増加が見込まれる。	4 ウォーキングに取り組むことにより、生活習慣病の発症予防や改善につながり、医療費低減効果が見込まれる。	65	働き盛りの方の参加促進が難しく、事業内容の充実を図ることが課題となっている。ウォーキングポイント登録制度を創設し、高得点者を表彰する事業を実施してきたが、歩数だけではなく、運動・身体活動の“量と質”の両面に着目した取り組みが必要である。すでに【4-3】健診を受けてポイントゲットのポイント対象事業として実施していることを踏まえ、高得点者表彰はその事業に統合するなど、見直しが必要である。	4 (原案通り実施すべき)
3 町内の公園等管理担当課との調整を要する。	3 体操を日々の目録として実施できるようになることで、体調の維持管理、体力の維持向上の効果が見込まれると共に、多くの町民の目に触れる場所で実施することにより参加者増が見込まれ、ひいては効果の拡大が見込まれる。	3 体操の継続的な実施による健康増進効果に比例し、生活習慣の改善等が図られ結果として医療費低減効果が見込まれる。	55	体操を普及する「なかい体操サポーター」の養成は隔年に実施し、47名が修了している状況であるが、サポーターの養成のみにとどまっており、地域の活動の場や体操の定例開催にまで至っていない。今後は、この人材の活用を事業の核にし体操会の開催を目指し調整することが当面の課題。事業の展開方法についてはサポーターと共に検討し、住民が体操に取り組みやしやすい環境づくりを図りたい。	4 (原案通り実施すべき)
2 事業の賞品の提供依頼など、他団体との調整が必要である。	5 事業のキャンペーンを大々的に行うことが可能なため、対象者以外の全町民にも健康を意識づけられる効果が見込まれる。	3 健診受診促進による早期発見・早期治療効果、その他の健康増進事業への参加による医療費低減効果が見込まれる。	60	参加者(ポイント交換をする人)の増加が課題。「参加したくなる」ような事業内容、周知方法の検討が必要である。	4 (原案通り実施すべき)
3 今後取り組む内容によっては、庁内関係課との調整を要することが考えられる。	4 ホームページ等の充実を図ることで、健康に関する情報を入手する町民等が増え、健康意識が高まることが期待される。	3 健康づくりや疾病予防・改善などの実践に役立つ情報を入手する町民が増えることにより、医療費低減の効果につながるが見込まれる。	65	さらに充実を図るには、情報発信に関するノウハウを持った職員の参加や関係部署の協力が必要である。	4 (原案通り実施すべき)
3 今後取り組む内容により、庁内関係課との調整を要することが考えられる。	4 65歳到達者全員にリーフレットを配布するため、対象集団への効果が見込まれる。	3 対象者全員にリーフレットを配布することで、高齢者の身体的変化に関する講義の実施や、健康増進事業への参加促進により医療費低減につながると思われる。	60	高齢期の身体的変化に関する情報提供や高齢期に適した生活習慣獲得の推進、地域活動に特化した情報提供を計画している。しかし、他部署では高齢期に対しどのような情報を提供しているのか把握すること、町民がどのような情報を必要としているかを把握することが課題。	4 (原案通り実施すべき)